

輝け 常葉っ子

**学習・生活調査の結果をもとに
学校・家庭で協力し、子ども達を伸ばしていきましょう!**

夏休み明けからもうすぐ1ヶ月が経ちます。お子様の生活の様子はいかがでしょうか。夏休み前に行われた各種学習・生活調査の結果を報告いたします。あわせてこれまでの授業の様子から学校では、更に授業の充実等を図り、さらに子ども達を伸ばしていきたいと思ひます。家庭学習への励ましやアドバイス等、ご家庭にもご協力いただくことがあると思ひます。ひき続きどうぞよろしくお願いいたします。

【全国学力・学習状況調査】(6年生)より

4月に全国一斉に行われた国語と算数に関する学力調査です。

- **国語**では、「思考力・判断力・表現力」のうち「書くこと」に関する問題が県・全国平均を上回っていました。課題は、「話すこと・聞くこと」および「読むこと」の領域です。
- **算数**では、「データの活用」の領域が県・全国平均を上回っていました。課題は、「数と計算」の基本部分や「変化と関係」といわれる**比例の関係を記述で説明する問題等**でした。

【学校で力を入れたいこと、ご家庭にご協力をお願いしたいこと】

- 授業の中で、学んだことをお互いに説明する等、学び合う活動を多く取り入れていき、「**説明する力**」、「**考えをまとめる力**」に力を入れていきます。全校でそれらの取り組みを積極的にしていきます。定着には、まとめた内容をもう一度各自が「説明できる、書くことができる」ようにすることが必要です。**復習のために宿題にすることがあります**。ご家庭でも様子を見たり、励ましのお声かけをお願いいたします。**低・中学年でも音読練習や計算練習に力を入れていきます**。

【福島県学力検査結果から】(4年生・5年生・6年生)より

こちらは、4月に福島県で一斉に行われた国語と算数に関する学力調査です。先の「全国学力・学習状況調査」との違いは、4年生から行うので、**次の学年までの個人の学力の伸び具合**を「主体的・対話的で深い学び」、「学習方略」(時間内での作業量や認知といった問題のとらえ方)を見ます。個人の学力の伸び具合ですので**4年から5年、5年から6年と伸び具合がわかる**ものです。個表がわたりますのでそちらでご確認ください。

【学校で力を入れたいこと、ご家庭にご協力をお願いしたいこと】

- 上記の全国学力・学習状況調査同様、「読む・聞く・話す・書く」力の他、「**非認知能力**」といって「**ねばり強く取り組む力**」や「**認められたうれしさ**」も学力の向上に関係します。**授業の中でよくできたところは具体的にほめ、認めることに力を入れます**。
- **ご家庭の中でも、勉強以外のことでも「ほめる」ことを心がけていただければ幸いです**。ささやかなことでもきっと喜びます。



【学習・生活の意欲に関するQU調査から】（3年生・4年生・5年生・6年生）より

田村市内の小中学校で年に1回行われている学習・生活の意欲に関するQUという調査があります。学級集団の特徴をとらえるものです。この調査の結果は全体的に良く、例えば学級生活満足群（学級の居心地の良さ）の分布は、6年生の例では80%が学級生活満足群（全国平均は40%）に位置しています。小・中一貫の縦割りの活動等もいい効果につながっていると思います。

課題は、友達関係や学級の居心地がよくても、それぞれの学習意欲があまり高くありません。この課題克服の第一歩は学ぶ喜びをしっかりと持たせることです。教員はそのような授業づくりを各自ががんばります。繰り返しますが、保護者の方にもご家庭での協力をお願いすることがあります。

【「生きる喜びや希望」をテーマにした道徳の授業から】

（4年生・5年生・6年生・中学校1年生・中学校2年生）

何度か学校だよりでお知らせした「ライオンのおやつ」（小川糸著・ポプラ社）を題材にした道徳の授業は小中一貫のつながりを生かし、4年生～中学2年生まで行いました。「ライオンのおやつ」は、余命を宣告されたがん患者達のがレモン島というホスピスで人生の最期を迎えます。毎週日曜日の3時にそれぞれのリクエストにより、おやつがその方の思い出のエピソードと共に出されます。くじ引きですから、食べられた人も食べる前に命つきて食べられなかった人もいます。

ゲストティーチャーで現在もがんと闘病中の鈴木敏城先生（臨床哲学・臨床心理学サポートシステム代表）は、「ライオンのおやつではおやつを食べられなかった人もいましたが、**かなわない希望でもその方や周りの人の力になりますね**。私は今カウンセラーで人を支えることが自分の喜びになっています。」と子ども達に説きました。その後、授業の終わりにもう一度、それぞれのささやかな喜びや希望を子ども達から聞きました。どの学年の子どもも真剣に考えて答えていました。

4年生、5年生は自分の希望や喜びを聞いて！聞いて！という気持ちにあふれていました。

6年生は、はじめ希望というと立派なこと、すごいことを言わなきゃいけないのかとためらっている子どもも多かったようですが、日々のささやかなことでいいのだと思い始めてからささやかな喜びをたくさん語りました。

中学校1年生は、自分だけでなく他の人がどのようなことを考えているのかとても関心が高い様子が見られました。**中学校2年生**は、さらに考えを深めて他者に支えられている自分、他者を支えていきたい自分に気づいている生徒が多くて、深い考えに驚きました。

そして、4年生から中学校2年生まで**共通してあげられていた希望や喜びは「ほめられたこと」**でした。そこは学校と家庭で協力して、**子どものささやかなことをほめて認めていきたい**という思いを強くしました。

【来年へ向けて準備していること】

「**通級指導教室**」という**教室の開設**を来年目指しています。「学習や生活上の課題の克服のために個別の指導の時間」を取るためのものです。許可がおりるには教育課程への届けなど様々な手続きが必要になりただ今準備中です。まだできるかどうかは確定していません。これについては11月2日の授業参観でも校長からお話しします。

